

教評価第 58 号

平成31年3月13日

信州大学長

濱 田 州 博 殿

一般財団法人教員養成評価機構

理事長 田村 哲夫



信州大学教職大学院の認証評価実施について

貴大学に設置予定の専門職大学院設置基準第26条に規定される教職大学院について、学校教育法第109条第3項に規定する認証評価は、貴大学からの申請に基づき当機構で実施いたします。

(本件担当)

〒184-8501

東京都小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学内

一般財団法人教員養成評価機構事務局

小勝・谷田部・井村

Tel:042-329-7860 Fax:042-329-7889

E-mail:hyokajimu@iete.jp

学校実習科目の履修モデル

教育実践実地研究Ⅰ(教育課題探究プログラム)

	教職基盤形成コース	高度教職開発コース
内容	・学校の実態把握および特色の理解 ・学級、児童生徒の実態把握および特色の理解 ・学級経営の観察と省察 ・授業観察と省察 ・学習指導、生活指導、部活動等における補助指導と省察 ・校内研究会への参加と省察	・児童・学校・地域の実態把握および特色の理解 ・教育課程・地域連携等の実態把握および特色の理解 ・学校運営に関わる業務の観察と省察 ・校内研究会・学年会・教科会等の実態把握と特色の理解 ・支援会議・幼小中連携会議等の実態把握と特色の理解 ・就学に関わる会議の実態把握と特色の理解 ・不登校・いじめ・発達障害等の児童生徒に対する校内支援体制の実態把握及び特色の理解 ・授業観察・授業実践と省察
目標1	課題追究に関する目標	
	自らの課題について、学校現場の実態を把握するとともに、その実態を児童生徒個人、クラス、学校の視点から分析することができる。	自らの課題について、学校現場の実態を把握するとともに、実態に基づき目標設定、課題解決に向けた方針・方法を検討することができる。
第1週～5週	自己の課題についてクラス及び児童生徒の実態を把握することにより、問題解決に向けてクラス・児童生徒レベルで実態を把握する視点を身につける。	課題に基づいて児童・学校・地域の実態を把握する＝実践における実態把握の視点を身につける
第6週～10週	自己の課題について学校レベルの実態を把握することにより、マクロな視点での実態把握の視点を身につける	課題について、実態把握に基づき児童・学校レベルでの分析を検討する。 ＝現状についてのミクロ・マクロな分析力をつける
第11週～15週	自己の課題に関する実態把握に基づき、児童生徒・学校レベルで分析・検討する視点を身につける	課題に関する実態把握、分析に基づき、課題解決に向けた方針・方法・計画（プロセス）を検討することができる。 ＝課題解決検討力
目標2	実践的指導力の養成にかかわる課題	
	教師としての使命感・自覚を身につけるとともに、子ども理解に基づく授業計画力、授業分析力を身につけることができる。	勤務校の研究活動や学校運営に関与することを通して、学校の実態及び課題を明確化し、課題解決にむけた方略・方法を検討することができる。
第1週～5週	授業参観を通して、子どもの実態・特徴を理解する力を養う。	勤務校の研究活動・学校運営について自らの課題と関連させて実態を把握する
第6週～10週	授業参観・STとしての授業参加を通して、教材及び指導法から授業を分析する力を養う。	勤務校の研究活動・学校運営について、その特徴と課題を分析することができる
第11週～15週	授業研究のテーマの決定および計画立案・授業実践を通して、授業をデザインする力を養う。	勤務校の研究活動・学校運営について、課題解決に向けた方針・方法・計画（プロセス）を検討することができる。

教育実践実地研究Ⅱ

	教職基盤形成コース	高度教職開発コース
内容	・授業実践と省察 ・学級経営への参加と省察 ・教科外活動への参加と省察 ・校内研究会等への参加と省察	・学校運営に関わる業務への参加と省察 ・校内研究会・学年会・教科会等への参加と省察 ・支援会議・幼小中連携会議等への参加と省察 ・就学に関わる会議への参加と省察 ・不登校・いじめ・発達障害等の児童生徒に対する校内支援への参加と省察 ・授業実践と省察
目標1	課題追究に関する目標	
	自らの課題に対して、「実態把握→目標設定・方針方法の決定→実践→評価」の一連の流れを繰り返して課題解決を試みることで、実践的課題解決力を身につけることができる。	自らの課題に対して、「実態把握→目標設定・方針方法の決定→実践→評価」の一連の流れを繰り返して課題解決を試みることで、実践的課題解決力を身につけることができる。
第1週～第15週	各活動を通して、自らの課題について「実態把握→目標設定・方針方法の決定→実践→評価」の一連の流れを繰り返して課題解決を試みる	各活動を通して、自らの課題について「実態把握→目標設定・方針方法の決定→実践→評価」の一連の流れを繰り返して課題解決を試みる
第16週～第30週		
第31週～第35週	各活動の成果を踏まえ、課題に対する提案をまとめる。	各活動の成果を踏まえ、課題に対する提案をまとめる。

目標2	実践的指導力の養成にかかわる課題	スクールリーダー養成にかかわる目標
	即戦力となる新任教員としての資質を身につけることができる。具体的には、子どもの理解に基づく授業計画力・授業指導力・授業分析力、他者と連携して指導を展開する協働的態度を身につけることができる。	勤務校の課題解決に関与することを通して、スクールリーダーとしての資質を身につけることができる。具体的には、学校課題や組織の特徴を含めて実態を把握する視点、異なった考えに向き合い他者と対話を続ける協働的態度を身につけることができる。
第1週～5週	授業参観・授業実践を通して、子どもの実態・特徴を理解する力を養う。	各活動を通して、勤務校の課題について「実態把握→目標設定・方針方法の決定→実践→評価」の一連の流れを繰り返して課題解決を試みる
第6週～10週	授業参観・授業実践を通して、教材及び指導法から授業を分析する力を養う。	
第11週～15週	前年度の課題に基づき授業研究のテーマを決定し授業計画案を立案することにより、授業をデザインする力を養う。	
第16週から30週	授業実践を通して、教材開発力、授業指導力を養う。 T Tによる授業実践を通して、他の教員と連携する力を養う。	
第31週～第35週	自らの実践を振り返り、課題を検討することにより、省察する力を養う。	各活動の成果を踏まえ、課題に対する提案をまとめる。

学校実習科目の履修モデル

教育実践実地研究Ⅰ（教科授業力高度化プログラム）

	教職基盤形成コース	高度教職開発コース
内容	- 授業観察・授業実践と省察 - 教材開発・ICTを活用した授業づくりの探究 - 学校、学級、児童生徒の実態把握および特色の理解 - 校内研究会への参加と省察	- 授業観察・授業実践と省察 - 教材開発・ICTを活用した授業づくりの探究 - 校内研究会・学年会・教科会等の実態把握と特色の理解 - 教育課程・地域連携等の実態把握および特色の理解 - 教育課程編成を中心に学校運営に関わる業務の観察と省察 - 就学に関わる会議の実態把握と特色の理解
目標1	課題追究に関する目標	
	教科の授業力（主体的・対話的で深い学びの実現等）や児童生徒の学力（三要素を含む）向上等の課題に関連し、自らの課題について、学校現場の実態を把握するとともに、子どもの視点に立った高度な授業力を身につける。	教科の授業力（主体的・対話的で深い学びの実現等）や児童生徒の学力（三要素を含む）向上等の課題に関連し、自らの課題について、学校現場の実態を把握するとともに、子どもの視点に立った高度な授業力を身につける。校内研究や地域の研究会をリードし、学校や地域全体の学力を支える力をつける。
第1週～5週	自己の課題（授業・児童生徒の学力）について授業及び児童・生徒の学力の実態を把握することにより、学力向上（保障）に向けてクラス・児童生徒レベルで実態を把握する視点を身につける。	課題に基づいて児童（学力）・学校（教育課程・授業）・地域（学びの環境）の実態を把握する ＝実践における実態把握の視点を身につける
第6週～10週	自己の課題（授業・児童生徒の学力）について学校レベルの実態を把握することにより、マクロな視点での実態把握の視点を身につける	授業・児童生徒の学力等の課題について、実態把握に基づき児童・学校レベルでの分析を検討する。 ＝現状についてのミクロ・マクロな分析力をつける
第11週～15週	自己の課題（授業・児童生徒の学力）に関する実態把握に基づき、児童生徒・学校レベルで分析・検討する視点を身につける	授業・児童生徒の学力等の課題に関する実態把握、分析に基づき、課題解決に向けた方針・方法・計画（プロセス）を検討することができる。 ＝課題解決検定力
目標2	実践的指導力の養成にかかわる課題	スクールリーダー養成にかかわる目標
	教師としての使命感を身につけるとともに、子ども理解に基づく授業計画力、授業分析力を身につけることができる。	勤務校や地域の研究活動に関与することを通して、教育課程（授業・学力）の実態及び課題を明確化し、課題解決にむけた方略・方法を検討することができる。
第1週～5週	授業参観を通して、子どもの実態・特徴を理解する力を養う。	勤務校や地域の研究活動について自らの課題と関連させて実態を把握する
第6週～10週	授業参観・S Tとしての授業参加を通して、教材及び指導法から授業を分析する力を養う。	勤務校や地域の研究活動について、その特徴と課題を分析することができる
第11週～15週	授業研究のテーマの決定および計画立案・授業実践を通して、授業をデザインする力を養う。	勤務校や地域の研究活動について、課題解決に向けた方針・方法・計画（プロセス）を検討することができる。

教育実践実地研究Ⅱ

	教職基盤形成コース	高度教職開発コース
内容	- 授業観察・授業実践と省察 - 教材開発・ICTを活用した授業づくりの探究 - 校内研究会・学年会・教科会等の実態把握と特色の理解 - 学校の実態把握および特色の理解 - 学級、児童生徒の実態把握および特色の理解 - 学級経営、生活指導、部活動等における補助指導と省察 - 校内研究会への参加と省察	- 授業観察・授業実践と省察 - 教材開発・ICTを活用した授業づくりの探究 - 校内研究会・学年会・教科会等の実態把握と特色の理解 - 教育課程・地域連携等の実態把握および特色の理解 - 教育課程編成を中心に学校運営に関わる業務の観察と省察 - 学力や学習意欲を中心とした児童・学校・地域の実態把握や支援会議・幼小中連携会議等の実態把握と特色の理解 - 就学に関わる会議の実態把握と特色の理解 - 特に学力の観点から見た不登校・いじめ・発達障害等の児童生徒に対する校内支援体制の実態把握及び特色の理解
目標1	課題追究に関する目標	
	主体的・対話的で深い学びの実現等に関連する自らの課題に対して、「実態把握→目標設定・方針方法の決定→実践→評価」の一連の流れを繰り返して課題解決を試みることで、実践的課題解決力を身につけることができる。	主体的・対話的で深い学びの実現等の実現に関連する自らの課題に対して、「実態把握→目標設定・方針方法の決定→実践→評価」の一連の流れを繰り返して課題解決を試みることで、実践的課題解決力を身につけることができる。
第1週～第15週	各活動を通して、自らの課題（授業・児童生徒の学力）について「実態把握→目標設定・方針方法の決定→実践→評価」の一連の流れを繰り返して課題解決を試みる	各活動を通して、自らの課題（授業・児童生徒の学力）について「実態把握→目標設定・方針方法の決定→実践→評価」の一連の流れを繰り返して課題解決を試みる
第16週～第30週		
第31週～第35週	各活動の成果を踏まえ、課題（授業・児童生徒の学力）に対する提案をまとめる。	各活動の成果を踏まえ、課題（授業・児童生徒の学力）に対する提案をまとめる。

	実践的指導力の養成にかかわる課題	スクールリーダー養成にかかわる目標
目標2	即戦力となる新人教員としての資質を身につけることができる。具体的には、子どもの理解に基づく授業計画力・授業指導力・授業分析力、他者と連携して指導を展開する協働的態度を身につけることができる。	勤務校の課題（授業・児童生徒の学力）解決に関与することを通して、スクールリーダーとしての資質を身につけることができる。具体的には、学校課題や組織の特徴を含めて実態を把握する視点、異なった考えに向き合い他者と対話を続ける協働的態度を身につけることができる。
第1週～5週	授業参観・授業実践を通して、子どもの実態・特徴を理解する力を養う。	各活動を通して、勤務校の課題（授業・児童生徒の学力）について「実態把握→目標設定・方針方法の決定→実践→評価」の一連の流れを繰り返して課題解決を試みる
第6週～10週	授業参観・授業実践を通して、教材及び指導法から授業を分析する力を養う。	
第11週～15週	前年度の課題に基づき授業研究のテーマを決定し授業計画案を立案することにより、授業をデザインする力を養う。	
第16週から30週	授業実践を通して、教材開発力、授業指導力を養う。 T Tによる授業実践を通して、他の教員と連携する力を養う。	
第31週～第35週	自らの実践を振り返り、課題（授業・児童生徒の学力）を検討することにより、省察する力を養う。	各活動の成果を踏まえ、課題（授業・児童生徒の学力）に対する提案をまとめる。

学校実習科目の履修モデル

教育実践実地研究Ⅰ（特別支援教育高度化P）

	教職基盤形成コース	高度教職開発コース
内容	・特別支援学校の実態把握および特色の理解 ・特別なニーズのある児童生徒の実態把握および特色の理解 ・学級経営の観察と省察 ・授業観察と省察 ・学習指導，生活指導等における補助指導と省察 ・校内研究会への参加と省察	・特別なニーズのある児童生徒・特別支援学校・地域の実態把握および特色の理解 ・特別支援学校の教育課程・地域連携等の実態把握および特色の理解 ・特別支援学校の運営に関わる業務の観察と省察 ・校内研究会・学年会・教科会等の実態把握と特色の理解 ・支援会議等の実態把握と特色の理解 ・就学に関わる会議の実態把握と特色の理解 ・特別なニーズのある児童生徒に対する校内支援体制の実態把握及び特色の理解 ・授業観察・授業実践と省察
目標1	課題追究に関する目標	
	自らの課題について，学校現場の実態を把握するとともに，その実態を児童生徒個人，クラス，学校の視点から分析することができる。	自らの課題について，学校現場の実態を把握するとともに，実態に基づき目標設定，課題解決に向けた方針・方法を検討することができる。
第1～5回	特別支援学校の児童生徒の実態および学校レベルの実態を把握することにより，自らの課題の追求における実態把握の視点を身につける。	課題に基づいて児童・学校・地域の実態を把握する ＝実践における実態把握の視点を身につける
第6～11回	自己の課題について，実践における児童生徒やクラスの実態を把握することにより，実践から課題の焦点化や更新を行う視点を身につける	課題について，実態把握に基づき児童・学校レベルでの分析を検討する。 ＝現状についてのミクロ・マクロな分析力をつける
第12回	自己の課題に関する実態把握に基づき，児童生徒・学校レベルで分析・検討する視点を身につける	課題に関する実態把握，分析に基づき，課題解決に向けた方針・方法・計画（プロセス）を検討することができる。 ＝課題解決検討力
目標2	実践的指導力の養成にかかわる課題	スクールリーダー養成にかかわる目標
	教師としての使命感・自覚を身につけるとともに，個々の子どもの特別なニーズに基づく授業計画力，授業分析力を身につけることができる。	勤務校の研究活動や学校運営に関与することを通して，学校の実態及び課題を明確化し，課題解決にむけた方略・方法を検討することができる。
第1～5回	授業参観・STとしての授業参加を通して，子どもの実態・特徴を理解する力，教材および指導法から授業を分析する力を養う。	勤務校の研究活動・学校運営について自らの課題と関連させて実態を把握する
第6～11回	授業研究のテーマの決定および計画立案・授業実践を通して，授業をデザインする力を養う。	勤務校の研究活動・学校運営について，その特徴と課題を分析することができる
第12回	個々の子どもの特別なニーズに基づく授業づくりの方針・方法・計画（プロセス）を検討することができる。	勤務校の研究活動・学校運営について，課題解決に向けた方針・方法・計画（プロセス）を検討することができる。

教育実践実地研究Ⅱ（特別支援教育高度化P）

	教職基盤形成コース	高度教職開発コース
内容	・特別支援学校の運営に関わる業務への参加と省察 ・校内研究会・学年会・教科会等への参加と省察 ・支援会議等への参加と省察 ・就学に関わる会議への参加と省察 ・特別なニーズのある児童生徒に対する校内支援体制への参加と省察 ・授業実践と省察	・特別なニーズのある児童生徒の個別の指導計画の作成 ・授業実践と省察 ・学級経営への参加と省察 ・授業以外の校内活動への参加と省察 ・校内研究会等への参加と省察
目標1	課題追究に関する目標	
	自らの課題に対して，「実態把握→目標設定・方針方法の決定→実践→評価」の一連の流れを繰り返して子どもの発達課題に対する課題解決を試みることににより，実践的課題解決力を身につけることができる。	自らの課題に対して，「実態把握→目標設定・方針方法の決定→実践→評価」の一連の流れを繰り返して子どもの発達課題に対する課題解決を試みることににより，実践的課題解決力を身につけることができる。
第1～5回		
第6～10回	各活動を通して，自らの課題について「実態把握→目標設定・方針方法の決定→実践→評価」の一連の流れを繰り返す，課題解決を試みる。	各活動を通して，自らの課題について「実態把握→目標設定・方針方法の決定→実践→評価」の一連の流れを繰り返す，課題解決を試みる
第11～22回		
第23～27回	各活動の成果を踏まえ，課題に対する提案をまとめる。	各活動の成果を踏まえ，課題に対する提案をまとめる。

目標2	実践的指導力の養成にかかわる課題	スクールリーダー養成にかかわる目標
	即戦力となる新人教員としての資質を身につけることができる。具体的には、個々の子どもの特別なニーズに基づく指導及び授業計画力・教材開発力・授業指導力・授業分析力、他者と連携して指導を展開する協働的態度を身につけることができる。	勤務校の課題解決に関与することを通して、スクールリーダーとしての資質を身につけることができる。具体的には、学校課題や組織の特徴を含めて実態を把握する視点、異なった考えに向き合い他者に対話を続ける協働的態度、他の教員のモデルとなる授業計画力・教材開発力・授業指導力・授業分析力を身につけることができる。
第1～5回	授業参観・授業実践を通して、子どもの実態・特徴を理解する力、教材および指導法から授業を分析する力を養う。	勤務校の各活動を通して、自らの課題に基づいた研究活動・学校運営についての課題を分析・検討することにより、学校の課題を把握し解決方法を立案する力を養う。
第6～10回	個別の指導計画および、授業研究のテーマを決定し授業計画案を立案することにより、授業をデザインする力を養う。	各活動を通して、勤務校の課題について「実態把握→目標設定・方針方法の決定→実践→評価」の一連の流れを繰り返して課題解決を試みると共に、課題と関連した児童生徒への指導の実践を通して他の教員のモデルとなる実践的指導力を養う。
第11～22回	授業実践を通して、教材開発力、授業指導力を養う。 T Tによる授業実践を通して、他の教員と連携する力を養う。	
第23～27回	自らの実践を振り返り、課題を検討することにより、省察する力を養う。	各活動の成果を踏まえ、課題に対する提案をまとめる。